

# 下都賀地区生涯学習研究会機関紙 第34号

# ネットワーク

平成26年3月  
 発行 下都賀地区生涯学習研究会  
 事務局 下都賀教育事務所  
 ふれあい学習課内  
 Tel 0282-23-3422  
 Fax 0282-23-3502  
 Mail: shimotsuga-kyouiku@pref.tochigi.lg.jp

先日、ロシアのソチにてオリンピック、パラリンピック冬季大会が開催されました。本大会は若手の活躍の一方で熟練（ベテラン）の技の素晴らしさも印象に残る大会となりました。何事も継続していくためには様々な困難があると思いますが、努力し続ける意義、すなわち、生涯にわたって学習（努力）していく「生涯学習の大切さ」や「生涯学習の大きな可能性」を考える貴重な機会にもなったのではないのでしょうか。他方、本県においては来年度から「地域連携教員の設置」の制度化が始まります。有資格教員等が中心となり、子どもたちが地域で活動する機会を教育活動に幅広く組み込むなど、学校と地域が様々な取組をとおして継続的に良好な関係を構築していくことを目指していきます。ぜひ、本紙をとおして会員の皆さんの取組事例を共有し、皆さんで子どもたちの笑顔のためによりよい実践をしていきたいですね。



## シリーズ「事例から学ぶ39」 「ボランティアスクールの開催」

県立栃木特別支援学校 教諭 小島 友香

本校は知的障害教育部門、肢体不自由教育部門、病弱教育部門の3部門からなる特別支援学校です。小学部から高等部までの児童生徒が、毎日明るく元気に学習に取り組んでいます。

本校では毎年「ボランティアスクール」を開催して、学校支援ボランティアの養成をしています。今年度は5月から10月までの6回にわたり開催し、高校生から社会人まで50名近い参加がありました。

内容は、特別支援学校の説明、障害の理解（知的障害・肢体不自由・病弱）、運動会への参加、車椅子体験、ワークショップ「傾聴」、夏休み親子のつどい参加などです。皆さん、楽しくそして真剣に学んでいます。修了後は、学校や仕事の休日などを利用して、授業や校外学習などの学習支援を中心に活動しています。

子どもたちも、地域の方との触れ合いができ貴重な体験となっています。また、障害のある子どもたちを理解する地域の方が増えることに大きな意味があります。今後もボランティアスクールを通して、より多くの方に本校や子どもたちについて理解していただきたいと思ひます。



## シリーズ「事例から学ぶ40」 「‘いいまち’は‘いい学校’を育てる」

栃木市教育委員会事務局生涯学習課 社会教育主事 木村 信孝

ボランティア活動回数 4,344 回、ボランティア延べ人数 24,501 人…これが本年度の「とちぎ未来アシストネット事業」の実績です。現在、栃木市の小中学校には、多くの地域の方が、ボランティアとして訪れています。本の読み聞かせや習字、ミシン、版画、楽器の指導、校庭の樹木の剪定に花壇の整備、校舎内の掲示物の作成そして部活動の指導等々と学校生活のあらゆる場面で大活躍です。

地域の大人を慕う子どもたちの姿、我が子（孫？）を見守るように接するボランティアの方の優しい眼差し、積極的に地域の人に話しかける先生の態度…学習効果はもちろん、きっとそれ以上の贈り物を学校は地域からもらっているんだと思ひます。

「‘いいまち’は‘いい学校’を育てる」…

学校は地域からたくさんの栄養を吸収して、大樹のようにたくましく育っていきます。



## 雑感「雪にも負けず、たき火のつどい」

県立太平少年自然の家 指導主事 関口 幸治

太平少年自然の家の主催事業の中でも『たき火のつどい』は人気が高いが、第3回目は雪のため中止となった。電話で中止を伝えるたびに「楽しみにしていたのに。」という声が返ってくる。

第4回目こそは実施しなければと思っていた矢先、記録的な大雪が太平山を真っ白に染めた。日を追うごとに広場の雪は解けるどころか、厚い氷に変わる。「また、中止だな。」とつぶやきながら、スコップを片手に氷かきがはじまった。言葉とは裏腹な「参加者は楽しみにしている。」という思いは、全職員の体を動かした。そして、1日平均2・3時間の氷かきは「たき火のつどい」開催を決定させた。腰の痛み、腕の痛みが残ったものの参加者の笑顔と「ありがとう」の声に癒やされた。参加者の喜びは、まるで自分たちのことのようにうれしかった。

人と人とのつながりを深めるたき火のつどいだが、私自身も懐かしい人とのつながりができた。それは、さつまいもを買うために近所の八百屋へ数十年ぶりに足を運んだことだ。スーパーでは教えてくれないさつまいもの保管の仕方やおいしい食べ方などを聞きながら、懐かしい話に顔を赤くした。一つのつながりは、いくつものつながりに枝分かれし、大きな実を結ぶことにつながる。そのようなつながりをさらに広げながら大切にしていきたいと思う。

## リレー「となりの社教主事29」

「ネットワークは財産」

栃木市立栃木第三小学校 教頭 五味 壽明

社教主事講習を受けたのは20年前、今年の夏でちょうど20年になります。「持つてるだけの社教主事資格」では…と常々考えているのですが、「これぞ社教主事」というような働きをした覚えは全くありません。それでも、社教現場で9年、学校現場で11年。資格をもちながら仕事をしてきてよかったと思うことは、いつの間にか、様々なところで、自分でもびっくりするほど多くの人とのつながりができたことです。

今、改めて社教主事は「つながり」に関わる仕事をしているのだと実感しています。「つながり」ができると連携して何かができるし、やがてそれがネットワークにも発展していきます。今の自分の最も重要な目標はネットワークの充実で、「ネットワークは財産だ」というのが20年目を迎えた今の感想です。現在は「とちぎ未来アシストネット」の学校コーディネーターを務めています。微力ではありますが、多くの人たちとつながり、ネットワークを充実させられるよう努力していきたいと考えているところです。

## “ニューフェース”の紹介

1月22日から2月28日まで国立教育政策研究所 社会教育実践研究センターにて社会教育主事講習を受講された 小山市教育委員会事務局 生涯学習課 酒巻 誠 主事を御紹介します。



「社会教育の可能性を感じました」  
小山市教育委員会事務局  
生涯学習課 主事 酒巻 誠

社会教育主事講習でまず驚いたのは、全国から集まる個性豊かな受講者達です。各々が熱意と使命感を持って集まりました。私はその雰囲気にも圧倒されながらも、少しでも多くの知識とセンスを学んで持って帰り、全国の仲間と切磋琢磨して、「いい仕事」をしていきたいと改めて決意することとなりました。講師や国社研の職員の方々の丁寧な指導、そして全国の仲間達との交流できた経験は宝物です。

送り出してくれた職場の方々に感謝して、地域に還元していきたいと思えます。

## 学校を応援したーい5

「遊び学びキャラバン隊」

「遊び学びキャラバン隊」とは地域参画・地域貢献をめざして取り組む教職員ボランティアの団体です。約10年にわたり、下都賀地区を中心に活動しています。活動内容は主に公民館等社会教育施設における自主事業（工作活動や理科実験、書道教室、水泳教室など）の展開や子ども会・育成会等の各種青少年教育事業の支援を地道に行っています。写真の活動は平成25年6月2日（日）に下野市グリムの館にて「ものづくり（工作）」ブースを出店したときの様子です。当日は県立小山城南高等学校のJRCの高校生も運営スタッフとして参加し、参加者の皆さんに喜んでいただきました。

ぜひ、下都賀地区生涯学習研究会の会員の皆さんも一緒に活動してみませんか。参加は都合のつくときだけで大丈夫です。

（皆さん、都合のつくときに参加することで楽しく参加されています。）

お気軽に下都賀地区生涯学習研究会事務局まで御連絡ください。



## 編集後記

雪もすっかり無くなり、新しい出会いを感じさせる季節になりました。『ネットワーク』とは、「人や組織の、ある広がりをもったつながり。」だそうです。私には、この機関誌でみなさまとつながることが、とても大きなエネルギーとなっております。今後とも、よろしくお願いたします。（関口）